

研究機関名：東北大学

受付番号：	2012-1-306
研究課題名	中耳手術症例の診療記録、検査記録を用いた中耳疾患、特に先天性真珠腫の診断、病態解明ならびに術後の聴力評価に関する後向き調査
研究期間	西暦 2012年 10月（倫理委員会承認後）～ 2017年 7月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（東北大学病院耳鼻咽喉・頭頸部外科 診療記録、検査データ） 上記材料の採取期間 西暦 2000年 1月～2012年 9月
意義、目的	<p>一般に先天性真珠腫は、『穿孔、著明な陥凹や肉芽などを伴わない鼓膜 intact な例でかつ鼓膜上皮と真珠腫上皮が連続していないもの』と定義される。難聴あるいは検診を契機として受診し、鼓膜所見またはCT所見から診断されることが多い。近年、先天性真珠腫の占拠部位から Stage 分類が試みられている。しかし、この分類は欧米で多いとされている前上象限（ASQ）から発生した病変が、後方に向かって進展する病態を主に反映した分類になっている。一方、末武らは1986年～1995年の当科および東北労災病院の先天性真珠腫 40 耳を検討し、前上象限（ASQ）群と後上象限（PSQ）群では様々な異なる性格を有することを提唱した。</p> <p>今回、当科の最近12年間の先天性真珠腫症例を検討し、その病変部位と Stage 分類との関係、手術を含めた経過を検討する。さらに、Stage 分類による分布を末武らの報告と比較検討し、世代間での違いにつき検討する。</p>
方法	最近12年間に当科で手術を施行した中耳疾患患者、とくに先天性真珠腫症例の診療記録、検査記録を review し、病変の局在、術前後の聴力、再発の有無を解析する。
問い合わせ・苦情等の窓口	東北大学病院耳鼻咽喉・頭頸部外科 日高浩史 連絡先：〒980-8574 仙台市青葉区星陵町 1-1 東北大学医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科 TEL:022-717-7304/ FAX:022-717-7307